

秦野市PTA連絡協議会信条

- 1. 信頼と協調で
- 2. 子どもの健全な成長を
- 3. 充実した家庭に

(昭和48年10月1日制定)



発行 秦野市PTA連絡協議会
 編集 秦野市PTA連絡協議会
 情報委員会
 事務局 秦野市立南が丘小学校
 秦野市南が丘4-1
 TEL 82-8401
 印刷 (有)みうら印刷

子どもの声を聞く 明日の笑顔のために

はじめを苦にして、未来ある子どもたちが命を落とすという痛ましい事件が後を絶ちません。私たち保護者は、子どもたちのために何ができるのか、あらためて考えてみたいと思います。7月14日に秦野市教育委員会・教育指導課の指導主事にお話を伺いました。

気づいて 子どものサイン

- トラブルを抱えている時には、どんな子どもにも兆候が少なからずあるようです。事例として挙げていただいたのが、
- ・表情の変化
 - ・口数が少なくなる
 - ・笑顔が少なくなる
 - ・休み時間の様子の変化
 - ・友達付き合いの変化
 - ・部活での様子の変化
 - ・出席を確認するときの本人の様子の変化
 - ・お弁当を残してくるなどです。

一人ひとりに 寄り添って

平成26年度より秦野市内の各小中学校にて「いじめ防止基本方針」が作成されています。この基本方針は「いじめ防止プログラム」「いじめ防止年間計画」とともに各校のホームページに掲載されています。

子どもたちが抱える問題の多くは、仲間はずれ、グループでの対立などがあります。

いじめと疑われる事案が発生したときは基本方針に従い、対策委員会を



がんばる子どもたちを支えたい

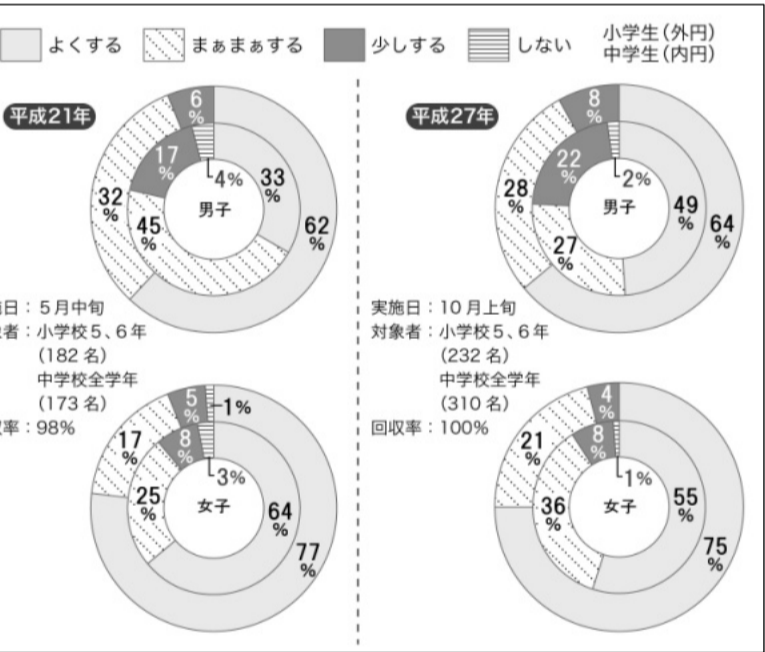
相手が嫌だと思っ たらいじめ

「いじめ」の発覚は、アンケートや、相談、申告、通報などがあります。嫌がらせを受けている側は、自分をみじめに感じ否定されているように、認めたくないという思いもあるようです。

開催します。それぞれの事案により、多少の違いはありますが、対策委員会では、いじめに関係している子どもとその保護者とともに、その場に応じて臨機応変に対応していく、という流れになっています。

抱え込まないで まずは発信

今回の指導主事への取材が、私たち保護者が子どものためにできることは何だろうか、と考えるきっかけとなりました。子どもの異変に気づいたら、本人から学校でのトラブルを打ちあけられたら「お友達とよく話をしてみたら」と答え、しばらく様子を見守ろうと考える保護者は多いと思います。時にそれが事態を悪化させてしまうこと



でも、相手が嫌だと思ったらそれは「いじめ」であり、決してあってはならないことなのです。

大人たちが、抱え込まずに話し合う姿を見せることによって、子どもたちにも相談する大切さを伝えることができるのではないのでしょうか。

アンケートを読む 座談会

平成21年度の「はだのP連だより」の中で「家族と一日にどのくらい会話をしますか」という統計が載せられていました。現在どのように変化したのか、アンケートを実施しました。この結果をもとに、情報委員7人で話し合ってみました。

増えている親子の会話

- A 会話は減っているのかと思いましたが、アンケートの結果では増えています。
- B 「よく話す」と答えた子どもは、小学校70%、中学校52%でした。
- C 最近、仲の良い友達のような親子が増えていますね。
- D 今回は「どんなときに会話をしますか」とも聞いてみました。圧倒的に食事中が多いのですが、習い事の送迎中という答えも多かったです。
- E 私の場合も、車内での会話はとても貴重な親子の時間です。
- F よく話している内容は、子ども、保護者共に「学校であったことや、友達のこと」です。
- G もっと話したいことは「悩んでいることや困っていますか?」

話しやすい環境づくりを

- A 悩んでいることを話す、というのは難しいことです。
- B 親に心配をかけたくないから、悩みごとを話さない、という子どもの意見がありました。
- C 本心に話したいことが話せているかが重要です。
- D まずは、話しやすい環境をつくることを始めてみようと思います。
- E 大事なことは子どもの状況を理解していること。
- F 悩みはもちろん、毎日どんなことを感じているのか、子どもの情報を家庭で共有していきたいと思いました。
- G 思っていることを言えない子には、そばに寄り添うだけでもいいと思います。
- H 家庭だけではなく、学校や地域で協力しあえば、いろいろな問題が減っていくのかもしれない。
- I 家庭の日々の会話の積み重ねこそ大切です。

第47回関東ブロックPTA研究大会

子どもたちと見守る未来への船出

秦野市PTA連絡協議会が発表

10月24日、25日に第47回関東ブロックPTA研究大会横浜大会が開催されました。第1日目は、分科会(6会場)がそれぞれのテーマで事例発表や講演を行いました。第3分科会では「徳」

「豊かな心」みんながつてみないいい」をテーマに事例発表やパネルディスカッション、基調講演、道徳の時間を味わう体験がありました。

第3分科会で報告

秦野市PTA連絡協議会の小泉会長が「いじめゼロのまちをめざして」の演題のもと、事例発表をしました。「はだの子」

子ども人権宣言や「いじめを考える児童生徒委員会」の活動、市P連会員研修会の取り組みなどを「With youありがどう」をBGMにスライドで紹介しました。

豊かな心を育むためには、それぞれの違いを認め合い、大人も子どもも自己肯定感を持ち、共感することが大切であるとわかりました。

となので、聞き方に工夫が必要です。

D 我が家では、一緒にいる友達の名前をよく聞きます。そこから友達関係の話し発展し、相談を受けたこともあります。

E 中学生の息子とは、いじめのニュースが流れたときには、会話をしよう心掛けています。

F 親は忙しいときには「あとで」と言うのではなく、話を聞く時間を約束するのも大切です。

SNS

「いじめを考える児童生徒委員会」中間報告 気軽だからこそ使い方を間違えない

渋沢公民館にて、第2回、第3回の委員会がありました。その様子取材してきました。

心と知恵を磨いて 正しく使おう

「子どもコミュニケーションサイト協議会」代表理事を講師にお迎えして、講義、ディスカッションが行われました(8月18日第2回)。

「ネットいじめを考えよう」という身近なテーマ



一緒に考えて積極的に意見交換

マで、市内の各小中学校の児童生徒42名が集まりました。

小中学生を対象としたアンケートでは、メールやLINEなどで「伝えたいことが相手に伝わらなかったり、嫌な思いや怖い思いをしたことがある」という回答が、上位を占めているそうです。

その後、グループに分かれてのディスカッションでは、トラブルにどう対応したら良いのか、子ども

どもたちが真剣に熱く語っている姿が印象的でした。「情報とは、心や知恵を磨くことが目的であり、使い方を間違えてはいけません。情報モラルを向上し、道具を正しく使って生活を豊かにしましょう」との言葉でまとめられました。

家庭内のルールを 子どもと再確認

11月開催の「はだの子ども議会」に向けて、スマートフォンや携帯電話に関する決議を考えました(10月18日第3回)。

各中学校区、4、8名のグループに分かれ、中学生がリードしながら話し合いが進められました。「はだの子ども議会」の議長は小中学生各1名

ずつで、小学生は6名が立候補し、その積極性を頼もしく感じました。秦野市教育委員会では、小学4年から中学3年の全児童生徒を対象に「携帯電話及びパソコンにおけるインターネットの利用状況等に関するアンケート」を実施しました。

その中で、利用料金が分からない(小学生75.9%、中学生61.4%)、フィルタリング設定の有無が分からない(小学生51.1%、中学生39.2%)という結果が出ました。家庭内でのルールも含めて、子どもと確認することが大切です。

また、時代の変化に対応していくために、保護者にもSNSの講習会が必要だと感じました。

技術の向上を目指して 広報クリニック

9月15日、24日、29日の3日間にわたり、市内の小中学校の広報委員を対象に、広報クリニックが開催されました。

講師は、全国小中学校PTA新聞コンクール審査員など広報活動に力を入れている武勝美先生。

各校が1学期に発行した広報紙を持ち寄り、工夫されている点や改善すべき点など、さまざまな

アドバイスを受けました。他校が評価されているときも熱心にメモをとる姿に、広報委員の意識の高さがうかがえました。

また、過去の記事に見出しを付ける練習など、実践的な指導もいただきました。

今回のクリニックが、2学期以降の広報紙作りに活かされると思います。



紙面を彩る工夫がいっぱい

から、これからの新聞を作るかイメージを

情報委員が協力 親子壁新聞づくり

今年で14回目を数える「親子で壁新聞づくり」

が7月30日と8月20日に東公民館で行われ、市内

の小学生と保護者24組が参加しました。

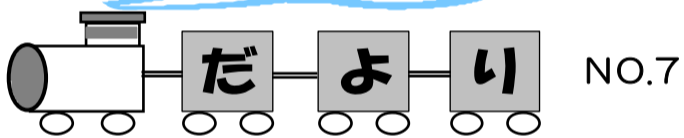
今までに作られた壁新聞を見ながら、これからの新聞を作るかイメージを

膨らませた子どもたち。小学4年男子からは「今までの作品が立派でびつくりした。早く作りたいです」という声がかれました。

8月20日には、できあがった壁新聞を手を、一人ずつ舞台上で発表。緊張しながらも堂々と話す子どもたちの姿に、見守る保護者も笑顔でした。

素敵な新聞とともに、親子のコミュニケーションがさらに深まった夏休みでした。

情報委員会



学校紹介

PTA会長に聞きました ～あなたの学校の自慢できるところは?～

◆親子で読もう♪◆
市内小中22校を3回シリーズで紹介。
気になる学校はあるかな?

※()内は所在地



東中学校
(寺山509)
生徒304名
昭和22年創立

東幼東小東中3校が隣接していることが自慢です。何かにつけて協力し合い、助け合っています。中学で催しがある時は小学校の校庭を駐車場としてお借りし、またその逆もあります。地域の催しの際は幼小中一体となり絶妙なバランスとタイミングで進行されます。



東小学校
(寺山512)
生徒560名
大正12年創立

幼小中が隣接し、学校間の交流が多いです。夏休み中、夕涼みまつり&ライブを開催。先生も歌を披露し、意外な一面が。自動コインカウンターを購入し、毎月の集金の集計がラクと先生方絶賛!!
今年度6年全員に、鼓笛の衣装を購入しました。



南中学校
(緑町16-1)
生徒508名
昭和22年創立

南中を紹介するときに真っ先に思い浮かぶのは南桜祭です。
南桜祭では、朝早くからPTAが準備をし、多くの模擬店を出店します。ステージでは生徒たちがパフォーマンスを披露し、PTAと生徒と一緒に楽しむ南中らしさを感じられる一大イベントです。



南小学校
(今泉699)
生徒1126名
明治25年創立

南小は2本の大きな桜が有名です。昨年度の卒業生が挿し木から育てた小さな桜が校庭に根差し、子ども達と共に成長していく姿を私は誇らしく感じています。
児童数1126人の県内7番目のマンモス校ですが、保護者、教員、地域に強いまとまりのある学校です。



本町中学校
(富士見町1-1)
生徒666名
昭和22年創立

本町中学校では、平成23年度から被災地支援ボランティアの活動を地域の方やPTAと連携して進めてきました。バザーでの収益を寄付したり、南三陸町に学校訪問して頂いた「ひまわり」を毎年咲かせて種を配布したりして支援の輪を広げています。



本町小学校
(文京町1-5)
生徒715名
明治6年創立

毎年6月にバザーを行っています。保護者と先生が一体となって父親クラブの焼きそばや本町レンジャーのステージ、ティーチャーズバンド演奏だけでなく、サルに金太郎にバズやパニー、カッパまでもが売り子となり子ども達と地域の方々を盛り上げています。



末広小学校
(末広町6-6)
生徒677名
昭和52年創立

我が校の自慢は、どこにも負けないバザーの規模です。品揃えはもちろんのこと、販売では主食からスイーツまで、本部、各委員会、おやじの会で元気いっぱい子ども達を出迎えます。先生方による朝採れ大根も人気です。生徒も保護者もこの日を楽しみにしています。

★編集後記★

伝えたい言葉を掘り起こし、さらには武先生のお宅のサツマイモも掘り起こし、パワフルでユーモアあふれる仲間たちと作り上げた新聞です。

いが皆さまに届きますように。

【編集委員】

- (上小)
- (南が丘中)
- (南が丘小)
- (西中)
- (渋沢中)
- (大根小)
- (本町小)

【お知らせ】平成28年3月に広報紙コンクールおよび広報紙展示会が本町公民館にて開催